文化

沈黙にわらう

沖縄戦　聞き取り47年　〈75〉

石原　昌家

平和祈念資料館問題⑧

「強制退去」県が削除

戦争マラリア、国責任薄める

戦争マラリアについての資料が展示されている八重山平和祈念館が創設された経緯を知ると、県当局のとった行為の重大性が浮き彫りになる。林学を専門とする琉球大学篠原武夫教授が、マラリアで亡くした肉親の死は日本軍の「強制」でマラリア有病地へ疎開したためだったことを偶然にも知ったことを契機に、1989年5月、「沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会」（世帯数約900、以下援護会と略記）を結成したことがその原点である。

以後、戦争マラリア犠牲者の遺族補償を求めた篠原教授の精力的な資料収集と援護会として不退転の活動は、県議会・県当局や国会議員・国会を動かし、ついに日本政府の重い腰を上げさせた。

「退去命令」の有無

紆余曲折を経ながら、援護会としての当初の目的には遠かったが、会員の高齢という事情で、3億円を戦争マラリア犠牲者慰藉事業費として受け入れることになった。八重山平和祈念館の創設は「強制退去」という戦争マラリア祈念館の建設だった。軍の戦争マラリア発生地への「強制退去」命令の有無が国を動かす決め手だった。

問題解決のタイムリミット間際、「県民指導指置八重山郡細部計画」という原本文書発見の朗報が、石垣在研究者から届いた。そこには「退去とは事態に応じ軍の命により危険地域の部落住民を最も安全な地域に移転せしむることをいう」とあった。当時の県職員と各委員は、戦争マラリアで無念死した3600人の魂が、その発見に導いたと手を取り合わんばかりに喜びあった。

「安全な地域」ではなかったが、「退去」が「軍命」である証拠になる大発見だった。八重山平和祈念館の展示の説明文に「強制退去」の文字に削除の線を引き、「避難命令」の文字を挿入していた。あり得ない、目を疑うような文字だ。「『避難』あり得ぬ／監修委員ら猛反発／八重山平和祈念館書き変え問題／『国の責任薄める』」の見出し記事の写真だった。

強制退去の文字に削除の線を引いた（その後、見え消しという行政用語がたびたび報じられた）担当者は、遺族にとって戦争マラリア戦病死者が二度無念死したという憤りを想像できなかったのであろうか。一連の書き変え・削除の報道で、すでに「戦争マラリアで両親、妻、二人の子どもを失った白玉真吉さん（89）＝石垣市大川、年齢は新聞掲載当時＝『県の首脳の考えが変わったからなのか』と遺族がないがしろにされていることを嘆いていた。（琉球新報1999年9月13日朝刊）。

副知事も懸念

99年9月17日、私たち八重山平和祈念館の元監修委員5人は副知事への要請と文化国際局長との話し合いをもった。強制退去の削除問題が注目を集めていた。そのときの監修委と副知事とのやりとりが、翌18日の琉球新報朝刊に掲載されている。以下に引用する。

〈八重山平和祈念館の展示の説明文変更問題で、監修委員会の石原昌家会長は石川秀雄副知事に、説明を求めた。以下は同委員の質問と副知事の回答。

石原委員　八重山平和祈念館は、どのような経緯で建設されることになったと、認識しているか。

石川副知事　マラリア慰藉事業の一つとして決まった。遺族会、犠牲者に対する祈念、戦争状況、マラリアの悲惨さを慰藉事業の中に入れる基本があった。

委員　国が三億円の慰藉事業を認めた決め手は何か。

副知事　犠牲者の思いが慰藉事業となった。

委員　思いだけで慰藉事業に国が三億円は出さない。決め手は何か。

副知事　遺族会の思いが国を押し、慰藉事業となったとしか申し上げられない）

副知事とのやりとりの記事はまだ続いている。しかし、部下の職員が削除した強制退去がその決め手になったことについて、上司としては、禁句になっていたようだ。その上、監修委員にも報告して、了解を得たという、ありえない報告を部下から受けての監修委員との話し合いなので、進展はなかった。

しかしながら、琉球新報社会部の問山栄恵、松永勝利両記者がすでに9月7日の時点で、八重山平和祈念館の展示問題について「表面化した後、石川副知事は文化国際局幹部に対して『こういうことはまず監修委員会を通してやらなければならない』と指摘する場面もあった。『やり方としてはまずかった。手続きを無視した形で拙速すぎた。手続きとしてもおかしく、大問題になると担当には言った』。県幹部の中にも今回の行政内部での変更作業を疑問視する意見が出ている（歪められる『平和』／資料館展示変更問題7）と指摘している。

二人の記者は、石川秀雄副知事が大問題になるという判断の下に、ことの成り行きを心配していたことを聞き出していたのである。個人的には高校大先輩の副知事を問いただすような形になっているが、副知事としては、予想通りに大問題になり、「とばっちり」を受けている思いだったろう、と推察していた。（次回以降もしばらく資料館展示変更問題を取り上げる）

（次回は2月後半掲載予定）

「変更部分、説明していない」

県「了解得ず」認める

元監修委員ら抗議

八重山祈念館開館

来、開発の完全中

当時の石川秀雄副知事らを訪ね、八重山平和祈念館の歴史問題について元監修委員の石原昌家氏らが抗議したことを報じる1999年9月18日付の琉球新報朝刊